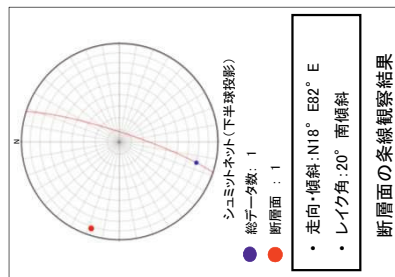


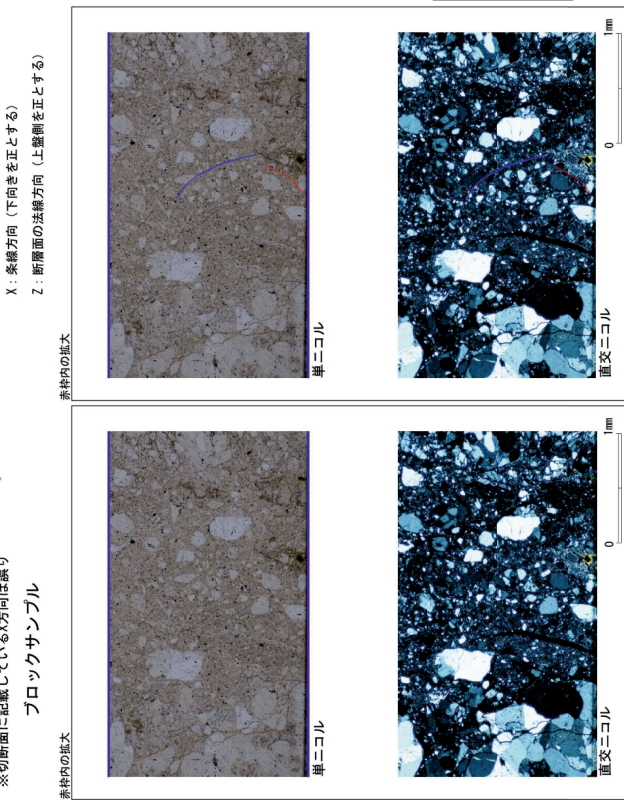
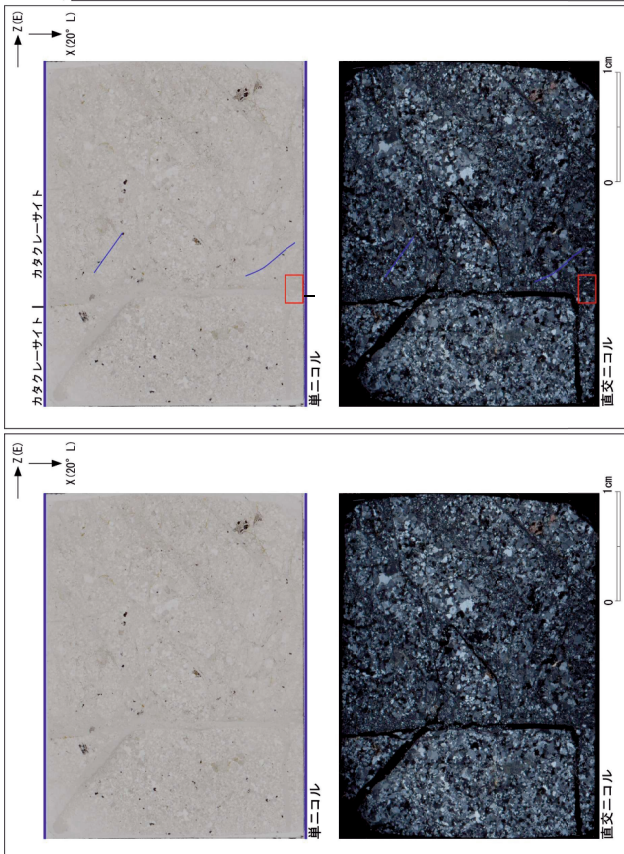
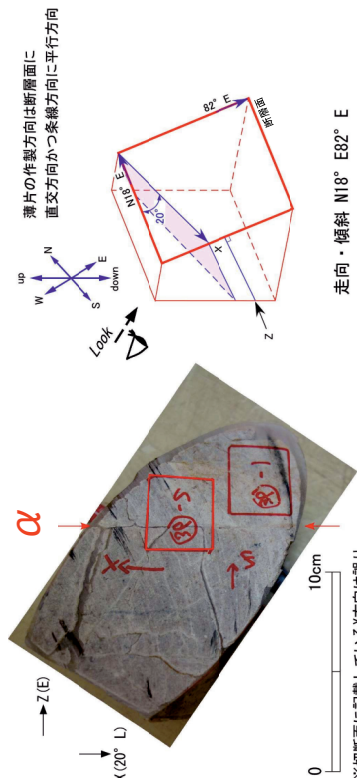
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



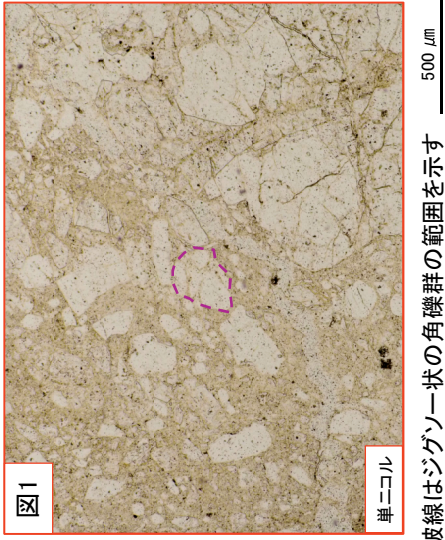
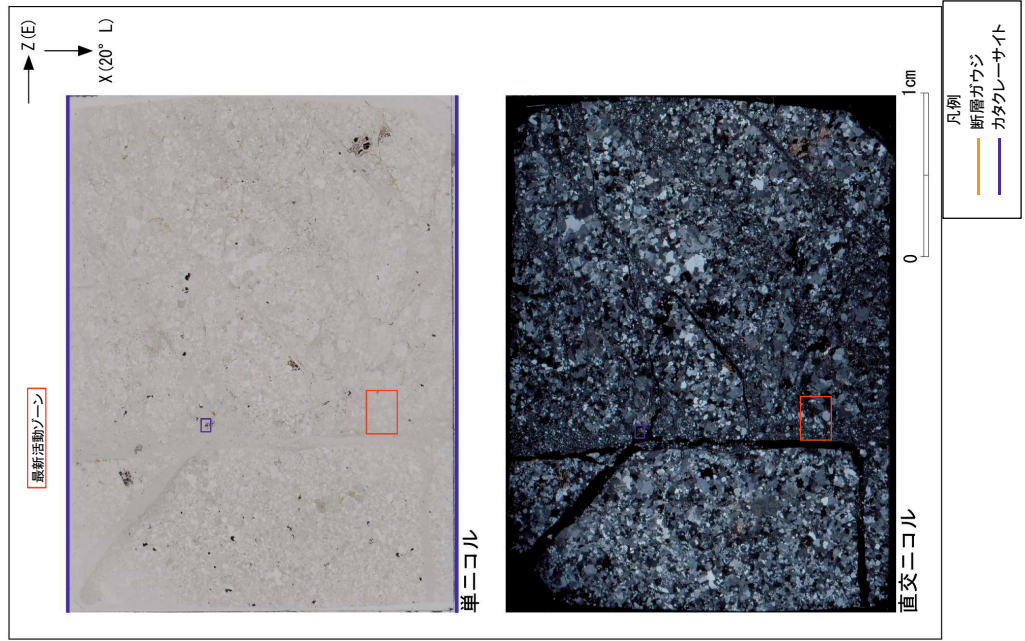
断層面の条線観察結果



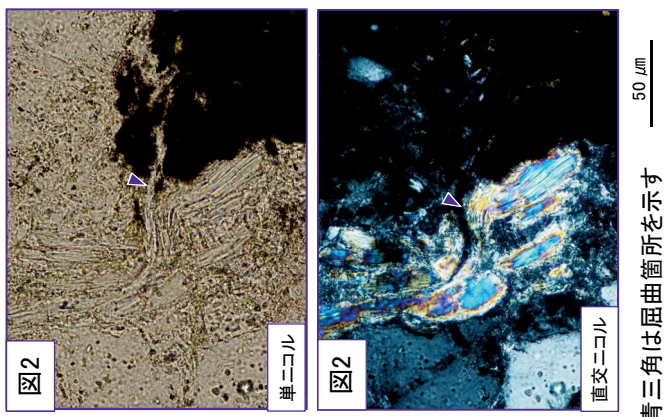
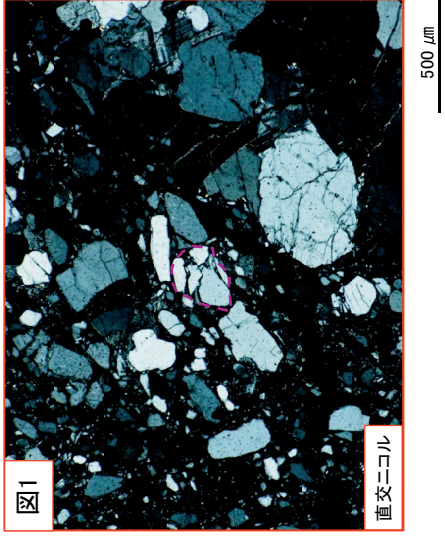
凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面

第7.4.4.296図 (3) 破砕部性状 H27-B-2 深度127.41~127.48m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)
  - 角ばった岩片が多い。(図1)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図1)
  - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図2)



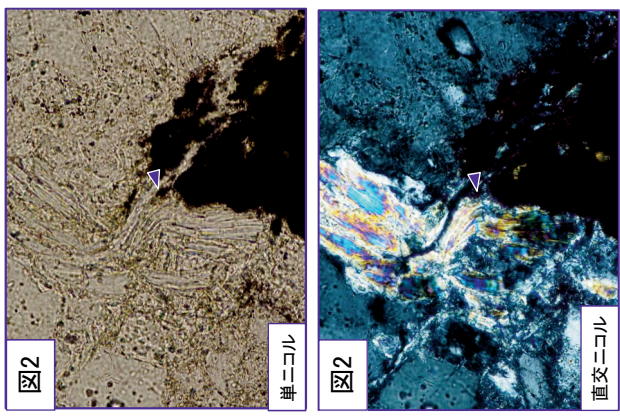
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



青三角は屈曲箇所を示す



ステージを時計回りに  
約45度回転



青三角は屈曲箇所を示す

第7.4.4.296図 (4)

破碎部性状 H27-B-2 深度127.41~127.48m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度127.41m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。粘土は軟質であるが、断続的に分布し、連続性に乏しい。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、カタクレーサイト中の粘土脈である。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面  $\alpha$  に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。
  - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	-	-

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度128.82～128.87mの「砂混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度128.87～128.88mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度128.88～128.97mの「粘土・砂混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●128.82～128.97m：破砕部  
 128.82～128.87m：砂混じり岩片状部 (Hj)  
 上端30°で幅1～2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行～斜交する割れ目と、これに60°～90°で斜～直交する割れ目が多く、径3～10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50～90mm。  
 128.87～128.88m：礫混じり粘土状部 (Hc-2)  
 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1～3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3～5mm。  
 128.88～128.97m：粘土・砂混じり岩片状部 (Hj)  
 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質な白色鉱物脈と接する。60～70°と10～30°の割れ目が多く、径5～15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化を伴う。灰赤色を呈する。幅60mm。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ  
 破砕部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部  
 細粒部は局所的に分布する



青砕部拡大  
 細粒部は局所的に分布する  
 0 5 cm

・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

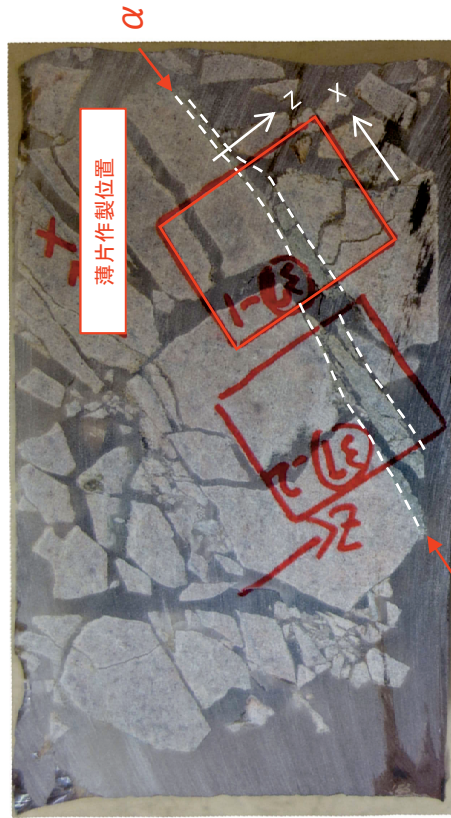
コア写真



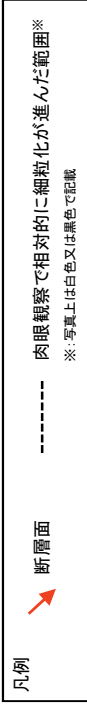
※断層面  $\alpha$  は最新活動面



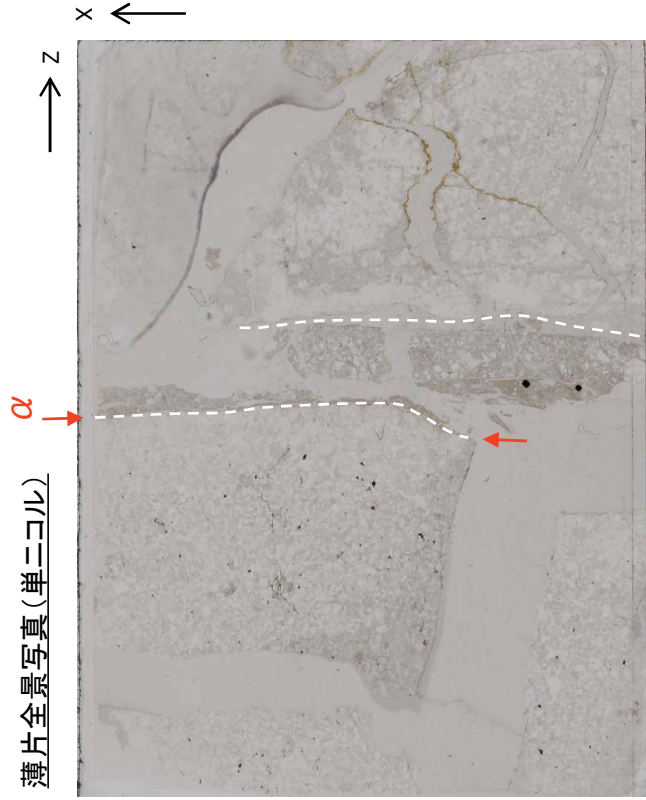
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)  
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)



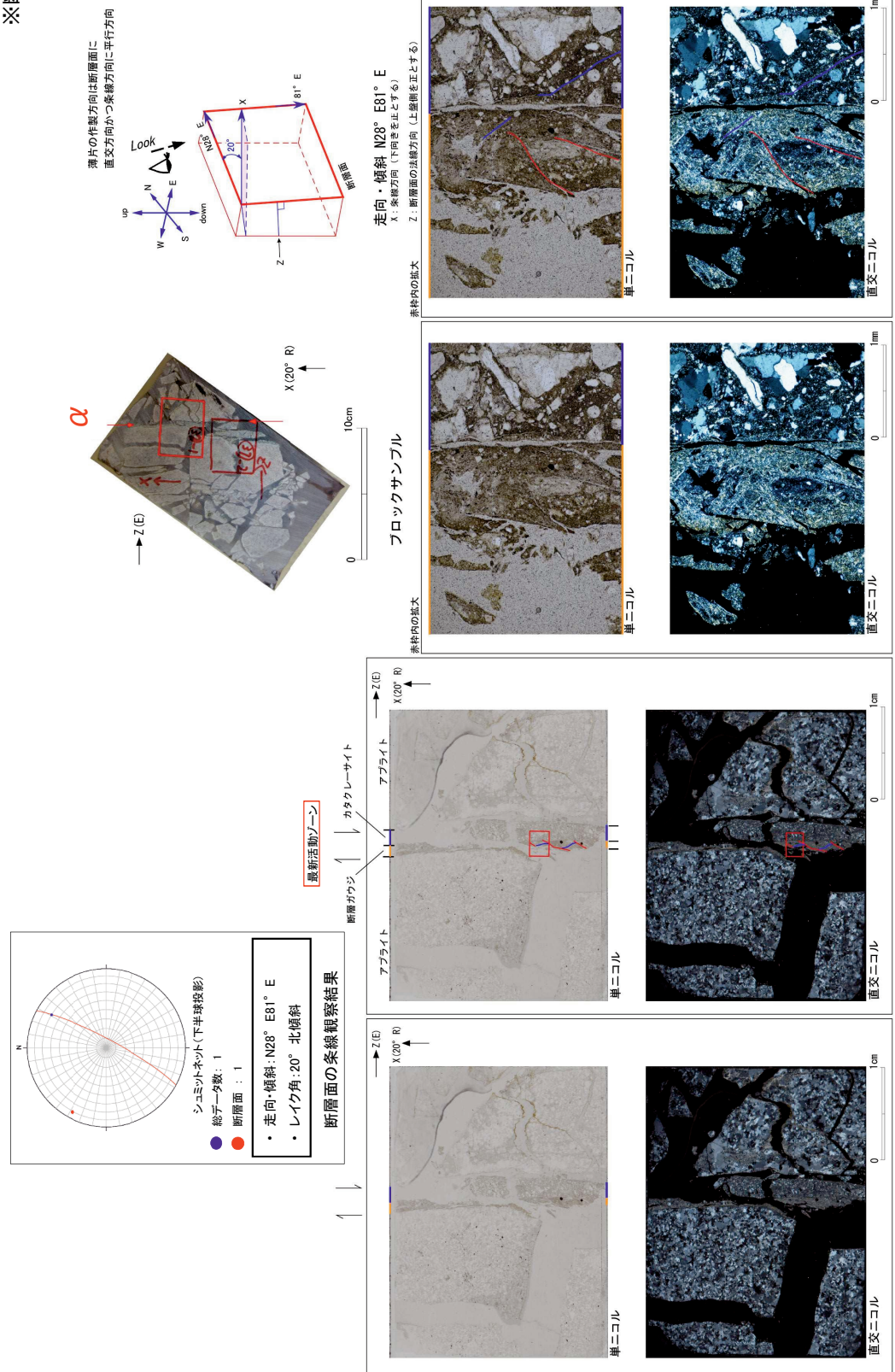
薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)  
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状態の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



第7.4.4.297図 (3) 破碎部性状 H27-B-2 深度128.82~128.97m (変位セシス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))